さくらタイムス令和６年３月号

年度最後のお題は「祈り」です。R4 年９月号（HP 参照）の落とした財布を返してもらった後、１年少々の間に２回また財布を落とし無傷で返してもらいました。つまり約１年半の間に３回落として何も失わなかったとになります。そのまま、ただ財布にだけはラッキーな「東洋の愚か者」としてアメリカ生活を続けてゆくことも可能でしたが、この経験には意味があると感じ、財布の恩人がそれぞれ「イスラム」「カトリック」「ヒンズー」の教えに従って「良きことをしただけ」だそうなので、「宗教って何？」と、ワシントンと近郊で休日に多数行われていた「オープン宗教法人」巡りを始めました。どこも教祖様や指導者の方々がおられ、様々な形式の祭壇があり、お話や祈りや懺悔などでした。変わったところでは、インドの聖女様がお付きに身体を支えられながら、毎回数百人を延々ハグし続ける団体や、ぼんぼん燃えさかる火に向かってひたすら祈り続ける「ゾロアスター」などもありました。２０か所ほど巡ってほぼ９割５分の共通項は、やはり「善をなせ」でした。ここではたと浮かんだのが、子どもの頃祖父母から聞いた「万教帰一（ばんきょうきいつ)」で、万（よろず）の教えは一つに帰る、つまり数多くの教えの根源は共通ということでした。もしこの源が「善をなせ」ということであれば、それに素直に従う人々は助け合い感謝しあい、世界は穏やかにいられるのでしょう。そしてそのために多種多様な宗教が祈りと共に「善」を説いているのでしょう。

さくらの子ども達は、「善」ではなく、まずありがとうの「感謝」を毎朝のお集まりで祈りながら実行しています。特定の宗教は採らず、手を合わせて目をつぶり集中して「目に見えない大きな存在や社会でお世話になる方々や家族・先生・友達」に感謝します。幼い子ども達は、母の胎内にいる時から大きな愛と共に「良きこと」を毎日シャワーのように浴びながら育っており、家庭ではもちろん集団生活の園でも「楽しい良きこと」満載で毎日を過ごしています。それに対し感謝することで「ありがたみ」が分かれば、自分からも同じ良きことを他者に実践しようとするという順序です。この祈りの効果は絶大で、ありがとうが身についた子どもが「どうぞ～」とおもちゃを友達に差し出したり先生のお手伝いをする姿は、本当にかわいらしく美しいです。

れんげさん、ご卒園おめでとうございます。「感謝と善」をもって、どんどんと大きく羽ばたいてくださいね。さくらはいつも皆さんのお幸せをお祈りしています。3 年間ともに過ごして下さって本当にありがとうございました。

園長　山内　香幸